

恵那市における小学校国語の結果分析

恵那市教育研究所

■ 平均正答率

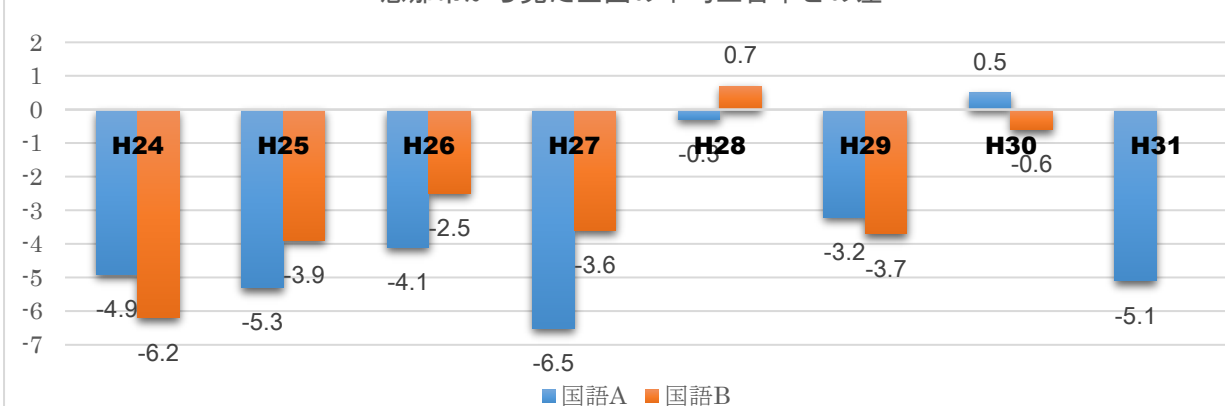
- 恵那市 58.7%
- 県 62%
- 全国 63.8%【恵那市から見た国との差 -5.1】

■ 集計結果

■ 調査結果の概要

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)			県差	国差
			恵那市	岐阜県（公立）	全国（公立）		
全体		14	58.7	63	63.8		▲ 5.1
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	70.5	72.9	72.3	▲ 2.4	▲ 1.8
	書くこと	3	48.5	53.3	54.5	▲ 4.8	▲ 6.0
	読むこと	3	80.9	82.0	81.7	▲ 1.1	▲ 0.8
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	5	44.6	50.5	53.5	▲ 5.9	▲ 8.9
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	3	55.5	57.3	57.6	▲ 1.8	▲ 2.1
	話す・聞く能力	3	70.5	72.9	72.3	▲ 2.4	▲ 1.8
	書く能力	3	48.5	53.3	54.5	▲ 4.8	▲ 6.0
	読む能力	3	80.9	82.0	81.7	▲ 1.1	▲ 0.8
	言語についての知識・理解・技能	5	44.6	50.5	53.5	▲ 5.9	▲ 8.9
問題形式	選択式	7	72.3	75.2	75.1	▲ 2.9	▲ 2.8
	短答式	4	37.5	44.6	48.7	▲ 7.1	▲ 11.2
	記述式	3	55.5	57.3	57.6	▲ 1.8	▲ 2.1

恵那市から見た全国の平均正答率との差



全国及び県との平均正答率の差は、昨年度から一転して、今年度は大きく下回りました。学習指導要領の領域別で見ても、問題形式で見ても、全ての項目で下回る結果となっています。

学習指導要領の領域別では特に、漢字の書き取りにおいて課題が見られました。「限らず」が正答の14(1)イは全国平均との差が20.9ポイントあるなど、出題された3問全てにおいて国との差が10ポイント以上引き離されています。

■ 指導改善のポイント

課題の見られた問題の概要

□ 調べたことを報告する文章を書く（「公衆電話」）

□ 四(1)ア 恵那市の
平均正答率 **29.5%**

公衆電話について調べたことを【報告する文章】の中の
——部アを、漢字を使って書き直す
(調査のたいしょう)

□ 四(1)イ 恵那市の
平均正答率 **48.5%**

公衆電話について調べたことを【報告する文章】の中の
——部イを、漢字を使って書き直す
(友達にかぎらず)

□ 四(1)ウ 恵那市の
平均正答率 **23.9%**

公衆電話について調べたことを【報告する文章】の中の
——部ウを、漢字を使って書き直す
(かんしんをもってもらいたい)

☞設問の詳細はこちらでご確認ください。

http://www.nier.go.jp/19chousa/pdf/19mondai_shou_kokugo.pdf

■ 解答の傾向について

「対象」が正答であるアの設問では，【解答類型3】（「たい」を「対」と解答しているが，「しょう」を「象」，「照」と解答していないもの）の反応率が正答率を上回りました。「対称」と解答している児童も多く，文脈の中で同音異義語の使い分けができていない状況が浮き彫りになりました。

「限らず」が正答であるイの設問では，【解答類型99】の反応率が34.5%と高く，「退」，「眼」等，「限」と同じ部分をもつ漢字を解答した児童が見られました。また，無解答率が17.0%と今回の小学校国語調査の中で最も高く，際立った特徴となっています。

「関心」が正答であるウの設問では，【解答類型2】（「感心」と解答しているもの）の反応率が50.6%と極めて高いという結果でした。アの設問と同様，同音異義語を文脈の中で使い分けることができなかったことが分かります。

■ 学習指導に当たって

漢字の学習指導については，本問のように，児童が教科の学習や実生活の中で文や文章を書くときに，漢字を正しく使うことができるようにすることが大切です。漢字ドリル等を用いて，新出漢字を中心に繰り返し練習をする機会を設けるとともに，自分が書いた文や文章を見直し，学習した漢字は積極的に使うよう意識を高め，正しい使い方を習得できるようにすることが大切です。

これに加え，学年の発達の段階に応じて，重点を踏まえて漢字を指導していくことも大切です。小学校段階における指導の重点は以下のようになっています。

学 年	指導の重点	主な教科書教材
第1学年及び 第2学年	○ 象形文字や指事文字等の指導を通して，漢字が表意文字であることを捉えさせるなどして， <u>漢字に対する興味・関心を高められる</u> ようにする。	・ 「かん字の はなし」（第1学年） ・ 「同じぶぶんをもつかん字」（第2学年）
第3学年及び 第4学年	○ 漢字のへん，つくりなどの構成を捉えたり，漢字辞典で漢字の意味を調べたりしながら， <u>漢字のもつ意味を考えて正しく使える</u> ようにする。	・ 「へんとつくり」（第3学年） ・ 「漢字辞典の使い方」（第4学年）
第5学年及び 第6学年	○ 漢字のもつ意味を調べたり，同音異義語に注意して使ったりしながら，使用頻度が増す <u>熟語などの語句を正しく使える</u> ようにする。	・ 「和語・漢語・外来語」（第5学年） ・ 「漢字の形と音・意味」（第6学年）

また，漢字の指導において成果を上げている学校には次のような特徴があります。

- ① 自校の児童の課題として「漢字の読み書き」を明確に意識している。
- ② 「認定証の発行」，「学校独自の検定」等の取組を通して，指導しきる営みが学校の中に位置付いている。
- ③ 読書活動を充実させる取組や環境が設定されている。

これらの取組を参考に，自校における漢字指導の充実を，学校全体で図っていく必要があります。